



令和 6 年度 中越支部フォーラム

令和 6 年 7 月 13 日(土)、ハイブ長岡にて令和 6 年度中越支部フォーラムが開催されましたのでご報告致します。

当日の来場者は 40 名でした。

〔講演会〕

講師：積水メディカル株式会社 学術企画グループ 服部 和久 先生

○第 1 部 採血管の取扱いとガイドライン

第 1 部では、採血管の仕組みについてお話いただきました。

採血管のキャップ(オーバーキャップ)は、蓋を開けた時や採血をして血液を採取している際に手指につかないよう設計されており、飛散率が低いため、感染防止が出来るそうです。

また、採血管内には抗凝固剤がスプレーされており、顆粒タイプの抗凝固剤に比べてスプレー塗布タイプの方がより溶けやすく、効果を発揮しやすくなります。これらの特徴はガイドラインに基づいた設計となっているそうです。

採血の手技については、ポイントとして①安全性(神経損傷/感染症)、②正確なデータ(転倒混和/採血量/採血管の順番)が大切だとご説明いただきました。

特に興味深かったのは、「クレンチング」と「パンピング」の違いについてのお話で、クレンチングは手を軽く握ってもらう動作で、パンピングは手を握ったり開いたりを繰り返す動作だと教えて頂きました。

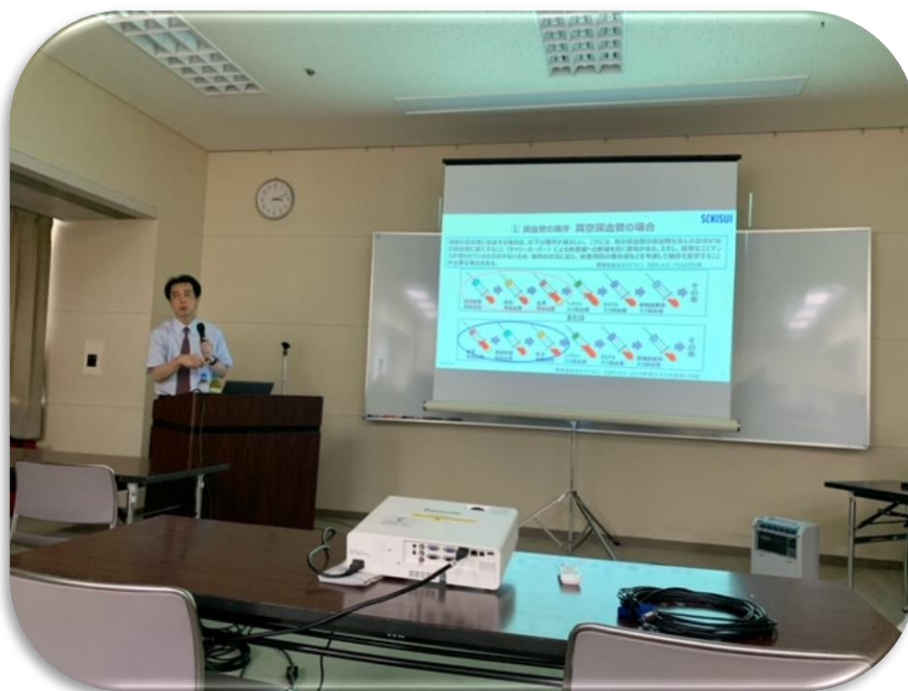


○第 2 部 採血における注意点(検査値への影響)

第 2 部では採血管の順番についてご講演いただきました。凝固検査を 1 番目に採取するか、2 番目にするかというところで、採血管内の添加物を次の採血管に持ち越してしまう可能性もあるため、検査データへの影響を防ぐ意味があるとのことでした。

採血手技が検査データに影響を与える要因としては、溶血、駆血、検体量、体位が挙げられます。施設によって私たち検査技師が採血を行っているため、今回の講演会で学んだことをしっかりと業務で活かしていきたいという思いが強くなりました。

この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



(文責：JA 新潟厚生連 長岡中央総合病院 石井 唯奈・常木 菜々恵)